

電気通信大学 平成16年度シラバス

授業科目名	電子工学実験第三		
英文授業科目名	Electronic Engineering Laboratory III		
開講年度	2004年度	開講年次	3年次
開講学期	6学期	開講コース・課程	夜間主コース
授業の方法		単位数	3
科目区分	専門科目-専門共通科目-必修科目		
開講学科・専攻	電子工学科		
担当教官名	E 全教官		
居室			

公開E-Mail	授業関連Webページ
higuchi@ee.uec.ac.jp	

【主題および達成目標】
電子工学の専門的な実験項目を各週で行い、データの収集・整理などの一連の作業を通して工学的な実験のセンス、手法を身につける。また、レポートの書き方およびプレゼンテーションの方法を学ぶ

【前もって履修しておくべき科目】
電子工学実験第一、第二

【前もって履修しておくことが望ましい科目】

【教科書等】
関係資料は授業開始のガイダンスの際に配布する。実験指導書は購入する(購入方法はガイダンスの際に説明する)

【授業内容とその進め方】
<p>1. 電子デバイス MOS構造の作製と評価 半導体特性評価 ホール効果と太陽電池</p> <p>2. 波動工学実験(マイクロ波)</p> <p>3. 信号処理(基礎信号処理)</p> <p>4. マイクロコンピュータの構造と動作</p>

電気通信大学 平成16年度シラバス

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

すべての実験日に出席し、すべてのレポートを期限内に提出することが成績評価の最低条件である。さらに、レポートの内容、提出の遅れ、遅刻早退を総合して成績を評価する。

【オフィスアワー：授業相談】

実験時間中に積極的に質問してください。また、実験指導員（掲示等で連絡します）に電子メールで連絡してください

【学生へのメッセージ】

上記4つの大きなテーマすべてを3週ずつ連続し、計12週間続ける。各大テーマ毎、或いはサブテーマ毎にレポートを提出する。電子工学実験第三の内容は専門的な実験が多く、電子工学実験第一、第二との関連、さらに講義内容と密接に関連するので、日頃の授業を十分理解しておくことが実験を進める上で重要となる。また、レポートを書き、それを期限内に提出するという決められたルーチンを守る心構えも大切である。

【その他】

MOS構造、ホール効果、太陽電池、マイクロコンピュータ、マイクロ波回路、信号処理